

資料

# 愛媛県下における畜産目的 SPF 豚導入の歴史と現況

城戸 武夫\*

## はじめに

愛媛県は、県経済連および野村町農協を母体におき、家保の慢性経済疾病対策の一環として、昭和50年12月、住商飼料畜産㈱丸森農場から Secondary SPF 豚を導入した。その後次第に組織の強化を図り、さらに Secondary SPF 種豚供給のための増殖センター構想が具体化し現在に至っている。

### 1. SPF 豚導入の背景

畜産目的 SPF 豚に着目したのは、SPF

swine (本誌) などによるところが大きい。波岡の本県における病性鑑定研修中、畜産目的 SPF 豚の紹介が引き金となった。当時病性鑑定業務のかたわら、経済連伊子と場で保健所の援助を得、本県豚病の概況を知ることができた。すなわち、肉眼的に健康と思われる豚はわずか20%前後で、特に呼吸器系統の疾病が70%にも及び、かつ病巣は複数多岐に亘っていた。この状況から、養豚経営の向上には豚病特に慢性疾病をいかに減少させるかが大きな課題であることが明らかとなった。

昭和50年、八幡浜家保管内の野村町雀田に

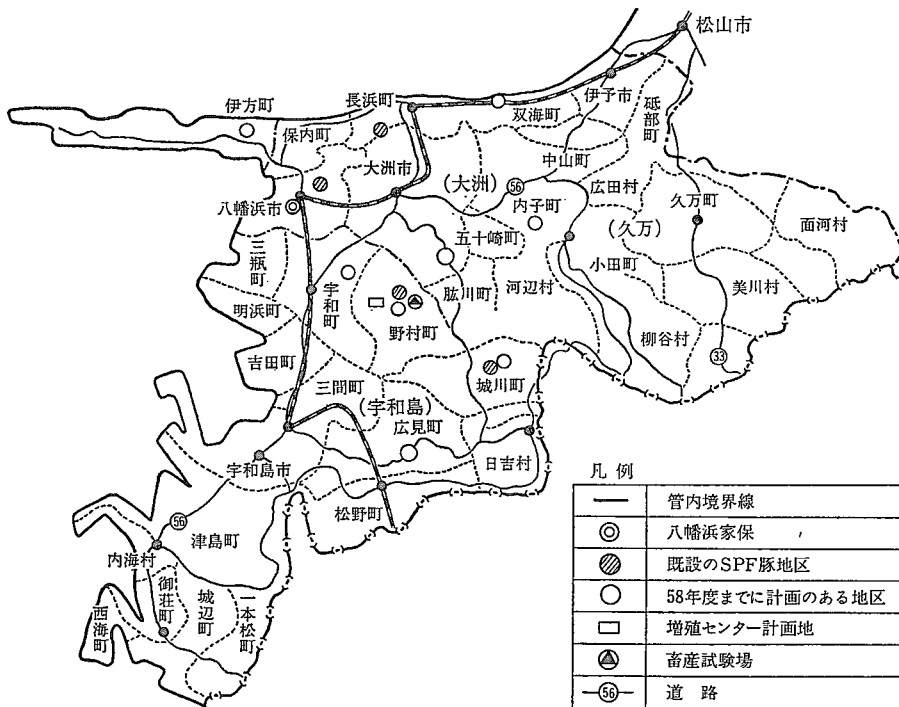


図1 八幡浜家保管内概要図

\* 愛媛県八幡浜家畜保健衛生所

SPF 豚が導入されたが、当時の状況を野村町農協組合長大塚は次のように述べている。

「千葉県の SPF 豚飼育農家を見学し、さらに SPF 豚中核農場主の意見をきき、SPF 豚を導入することに決定したがこの選択にはかなり不安があった。」

また、雀田養豚団地代表篠原は、「豚の飼育は SPF 豚に取り組んだときが初めてで、衣服、飼料はもちろん、昼食の米まで消毒液で洗ったし、新聞記者のカメラもガス消毒させた」という。

著者は SPF 豚が管内に飼育されたので、その成績を検討する機会が得られ好都合と感じた。昭和 51~53 年に担当者とともに紀和 SPF 畜産センター、千葉県（養豚試験場、SPF 豚農家）、岡山県（経済連種豚増殖センター）、全農中研など SPF 豚飼育農場や関係家保を訪ね意見を得るとともに、SPF 出荷用豚の「と場」検査を昭和 51~54 年の間に 15 回に亘り行い、一層の自信を得るに至った。

昭和 51 年には波岡による現地指導が行われ、また同 52 年および 54 年には宮原による研修会が開催された。当時 SPF 豚には一般農家も関心をもっており受講者は 100 名以上に達した。

昭和 55 年 3 月、SPF 豚飼育組織を強化するため、SPF 豚生産者協議会を設立し、生産者代表を会長として事務局を経済連畜産部に置き組織活動を実施することとした。経済連は全農

の協力を得て増殖センターの設置を予定し、SPF 豚の発展を目指した。一方、今後いかに SPF 豚を維持増強するかについては獣医技術者の大きな責任であることが痛感される。

2. 愛媛県内畜産目的 SPF 豚の飼育の状況  
表 1 に示すごとく、繁殖母豚は昭和 55 年度 23 戸、956 頭が 57 年度 44 戸、2,480 頭と増加した。

1) 野村町の概要

a. 飼育状況：表 2 に示した。

b. 今後の計画（昭和 57 年度まで）：現在 16 戸の養豚農家のうち 3 戸が一貫経営に切換予定。

No. 8 養豚農家：昭和 56 年 10 月ころ 70 頭一貫経営に切換予定

No. 10 養豚農家：昭和 56 年 7 月ころ 50 頭一貫経営に切換予定

No. 13 養豚農家：昭和 56 年~57 年内に 50 頭一貫経営に切換予定

c. 将来計画：最終的には野村町養豚農家は全農登録団地増殖種豚 1 戸を除き全戸畜産目的の SPF 豚の個人一貫または地域(区)内一貫経営とする予定。

町内養豚農家

1 戸(別枠)全農登録増殖種豚場計画農家繁殖豚 50 頭

16 戸 畜産目的 SPF 豚農家

表 1 愛媛県における SPF 繁殖母豚の飼育状況と将来計画

農場名	昭和 55 年 (実数)		56 年		57 年	
	戸数	繁殖母豚数	戸数	繁殖母豚数	戸数	繁殖母豚数
野村町	16(戸)	701(頭)	22(戸)	900(頭)	22(戸)	900(頭)
城川町	1	20	4	200	4	200
日土青果	5	196	5	200	5	200
長浜青果	1	48	1	50	1	50
内子町			6	420	6	420
豊岡*			1	150	1	150
宇和町					4	280
伊方町					1	300
合計	23	965	39	1,900	44	2,480

\* 八幡浜家保管外

表 2 野村町における現在の SPF 豚飼育状況

項目 農家番号	繁殖母豚	肥育豚	備 考
1	78 頭	500 頭	個人一貫経営 昭和50年住商丸森より導入
2	79	0	
3	76	0	繁殖 310 頭 肥育豚 1,000 頭の地区一貫
4	77	0	
5	0	1,000	
6	18	100	51~52年に繁殖母豚を住商, 千葉, 岡山県より導入 (個人, 地区一貫経営)
7	38	160	
8	58	0	
9	41	170	
10	0	250	No. 1, 15 農家などより導入肥育(地域一貫)
11	60	240	No. 8 農家より導入肥育(地域一貫)
12	60	230	
13	0	250	
14	45	180	
15	71	0	
16	0	300	
計	701	3,380	

3戸 地区一貫(繁殖豚80頭) } 飼育者年齢60歳  
 1戸 繁殖豚農家(15頭) } 以上の農家であ  
 1戸 肥育農家(100頭) } って, 後継者の  
 代に SPF 豚に  
 切換を予定して  
 いる

計22戸 畜産目的 SPF 豚飼育農家16戸  
(73%)

一般豚飼育農家 6戸

2) 八幡浜市日土町の概要

日土町は青果農協で柑橘中心であるが, 山頂(金山出石寺)に近い柑橘不適地は将来産地間競争で不利であるところから昭和52年度に, 「トヤモリ SPF 豚団地」を造成し, 団地内一貫経営を後継者中心に実施した。

a. 飼育状況: 表 3 に示した。

b. 今後の計画: 団地内一貫経営を団地内3戸の個人一貫経営に改め, 管理衛生, 経営向上につとめる。

3) 城川町の概要

野村町と桜峠を境に隣接している山間地で林業が中心産業であるが, SPF 豚については野村町雀田団地から導入した子豚の肥育成績が良好なことから昭和56年に1戸が SPF 豚農場に更新し, 同56年にさらに3戸の地域一貫経営農家が計画され, それぞれオールアウト後

表 3 日土町の飼育状況

項目 農家番号	繁殖母豚	肥育豚	備 考
1	94 頭	500頭 500	昭和52年度新設 団地内一貫経営
2	52		
3			
4			
5	50		
計	196	1,000	

表 4 城川町の飼育状況

飼育農家	繁殖母豚	肥育豚	備 考
福山栄信	20頭		地域一貫 昭和55年更新

SPF 豚導入を準備中である。

a. 飼育状況: 表 4 に示した。

b. 今後の計画:

i) 3戸の繁殖農家で母豚150頭(40, 40, 70頭)の地域一貫経営を計画(更新), 2月現在オールアウトを実施し清掃, 消毒, 休舎中。休舎中の経済援助について農協, 経済連で考慮中。

ii) 農協幹部が畜産目的 SPF 豚を導入する

ことに決定。

iii) SPF 豚に対する理解, 管理, 防疫等対応策について指導中(家保)。

c. 将来計画: 昭和55, 56年の成績をみて将来計画を立てる。

4) 長浜町の概要

瀬戸内海に面した肱川下流の畑作と柑橘地帯で農協は青果農協である。畜産では酪農歴は古いが, 養豚農家は1戸(SPF豚農家)で家保から遠隔地でもあるのだが将来さらに1戸SPF豚農家を追加するよう計画されている。

表5 長浜町の飼育状況

項目	繁殖母豚	肥育豚	備考
農家	48頭	350頭	昭和54年新設, 個人一貫経営
1			

飼育状況: 表5に示した。

5) その他

昭和56年度に内子町養豚団地内で6戸繁殖母豚20頭の一貫経営が, また豊岡で1戸150頭

表6 農家繁殖成績

(昭和53.4~53.9)

農 家		1	2	3	4
項 目	子 期 首 数 量 (kg)	2,000	3,200	2,800	2,500
	豚 期 間 購 入 量 (〃)	28,200	62,910	56,000	58,700
	飼 期 末 数 量 (〃)	2,500	3,600	3,300	3,000
	料 期 間 消 費 量 (〃)	27,700	62,510	55,500	58,200
種 豚	期 首 数 量 (〃)	2,000	2,500	3,000	3,000
	期 間 購 入 量 (〃)	28,000	44,500	39,000	38,300
	飼 期 末 数 量 (〃)	2,000	3,500	2,000	1,500
	料 期 間 消 費 量 (〃)	28,000	43,500	40,000	39,800
増 体	販 売 体 重 (〃)	14,699	26,190	23,772	22,840
	期 末 棚 卸 体 重 (〃)	6,640	13,560	14,400	16,440
	期 首 " (〃)	7,140	8,450	10,875	9,750
	期 間 増 体 量 (〃)	14,199	31,300	27,297	29,530
頭 数	販 売 頭 数 (頭)	423	610	590	576
	事 故 頭 数 (〃)	88	149	97	87
要 育 求 成 率	飼 料 要 求 率*	1.95	2.00	2.03	1.97
	育 成 率 (%)	82.8	80.4	85.9	86.9
延 頭 数	育 成 豚 延 頭 数 (頭)	0	920	752	760
	雄 豚 (〃)	54.9	1,094	915	962
	母 豚 (〃)	9,958	12,988	13,048	13,566
分 娩	分 娩 腹 数 (腹)	51	80	70	75
	分 娩 子 豚 数 (頭)	486	873	732	821
	1 腹 当 り 子 豚 数 (〃)	9.5	10.9	10.5	10.9
	1 日 1 頭 当 り 給 与 量	2.66	2.90	2.72	2.60
	回 転 率	1.9	2.25	1.97	2.03
一 頭 当 り	飼 料 給 与 量 (kg)	67.7	85.8	81.8	78.2
	販 売 体 重 (〃)	34.7	42.9	40.3	39.7
	増 体 重 (〃)	34.7	42.9	40.3	39.7

\* 期間における要求率を示す

の個人一貫経営が計画され実施段階に入っている。

昭和57年度には伊方町養豚団地1戸300頭規模(ウインドレス豚舎)の一貫経営が予定されている。

### 3. SPF 豚成績事例

以下、表によって示す(表6~9)。なお、参考資料として、月別飼養頭数、飼料消費量などを表10~13として示した。

表7 農家肥育豚成績

(昭和53.9~54.9)

項 目		農 家	
		1	2
肥 育 飼 料	期首数量(kg)	3,000	10,000
	期間購入量(〃)	30,100	266,500
	期末数量(〃)	4,000	13,000
	期間消費量(〃)	29,100	263,500
増 体	出荷体重(kg)	12,809	144,873
	事故豚体重(〃)	0	1,410
	期末棚卸体重(〃)	8,400	72,100
	期首棚卸体重(〃)	5,110	66,860
	子豚導入体重(〃)	6,169	61,522
	期間増体重量(〃)	9,930	90,001
頭 数	導入頭数(頭)	160	1,522
	事故豚頭数(〃)	0	23
	出荷頭数(〃)	123	1,448
要求率	飼料要求率	2.93	2.93
事故率	事故率(%)	0	1.56
一 頭 当 り	出荷体重(kg)	104.1	100.1
	導入体量(〃)	38.6	40.4
	増体重量(〃)	65.6	59.7
	給与量(〃)	192.2	174.9

飼養規模 No. 1: 100頭 No. 2: 1,000頭

表8 枝肉規格成績

区 分	上 物		中 物		並 物		等 外	
	頭 数	%	頭 数	%	頭 数	%	頭 数	%
A	83	67.5	26	21.1	11	8.9	3	2.5
B	924	63.8	298	20.6	176	12.2	50	3.4
計	1,007	64.1	324	20.6	187	12.0	53	3.3

表 9 A農家の繁殖から肥育までの成績

(昭和55年1月~12月)

(1)子豚の動き

	頭 数 (頭)	体 重 (kg)	備 考
期 首	853	39,390 (46.2)	先天けいれん症による
分娩産子数	1,618	2,427 (1.5)	
肉豚出荷数	1,389	147,380 (106.1)	
子豚販売	30	1,290 (43.0)	
事 故	218		
期 末	834	37,235 (44.6)	
期間増体量		144,088 (103.7)	

注 ( ) 内は1頭当り

(2)必要飼料の量

	飼 料 総 量	1 頭 当 り	備 考
期 首	17,800	—	
購 入	399,600	—	
期 末	13,450	—	
期間消費量	403,950	(290.8 kg)	

(3)飼料要求率, 事故率

飼料要求率	2.8%	分娩時~出荷	(先天けいれん症による)
事 故 率	13.5%	事故頭数÷分娩産子数	

(4)分娩成績

分娩腹数	165頭	
分娩産子数	1,618	
1腹当産子数	9.8	

(5)明細 (肉豚販売, 棚卸ほか)

月 別	分 娩 子豚数	離 乳 子豚数	肥育向数	肉 豚 出荷頭数	出 荷 時 生体重(kg)	枝 肉 重 量(kg)	規格率(%) 上 物	肥 育 豚 事故率(頭)
昭和55年 1	122	116	90	130	14,020	9,529	62.3	3
2	159	154	151	150	14,300	9,940	57.1	1
3	131	127	110	90	10,048	6,381	55.6	2
4	150	143	110	88	9,148	5,854.8	64.6	2
5	112	108	140	120	12,649	8,652	63.3	2
6	117	112	120	130	13,928	9,828	73.8	1
7	146	139	80	107	11,243	7,171.5	60.0	1
8	122	115	70	66	8,003	4,633.2	63.6	0
9	155	147	158	103	10,714	6,797.3	52.5	1
10	140	135	121	120	12,899	8,112	65.8	0
11	131	128	90	147	15,773	10,010.7	60.5	1
12	133	128	142	138	14,655	9,396.6	56.5	1
合 計	1,618	1,552	1,382	1,389	147,380	96,306.1	平均61.3	15

注: 枝肉重量は温と体

表 10 月別飼養頭数

月 別	常時母豚数	常時雄豚数	育成母豚数	分娩腹数
昭和55年 1	74.9	5	6	13
2	68.6	5.5	13.4	17
3	64.6	5.6	20.1	14
4	60.9	5.9	23.4	16
5	64.9	6	20.0	12
6	61.7	6	19.8	12
7	61.3	6	16.7	14
8	60.2	6	16.0	12
9	73.0	6	23.8	16
10	79.0	6	17.1	14
11	84.0	6	12.4	12
12	85.0	6	19.0	13
合 計	㊟ 69.9	㊟ 5.83	㊟ 17.3	165腹

平均子腹数 9.8頭

表 11 月別飼料消費量及び衛生費

月 別	購入飼料消費量				衛生費	
	子豚用 (t)	スーパーB (t)	ゴールドC (t)	ハイブリード (t)	医薬品 (円)	豚コレラ 予防(注)豚丹毒 (円)
昭和55年 1	0.25	12.0	22.5	6.6	9,650	0
2	0.3	13.0	19.5	6.6	8,725	33,000
3	0.28	13.5	20.75	6.4	9,365	0
4	0.31	13.0	21.5	6.45	9,875	93,390
5	0.32	12.5	22.5	6.3	9,765	58,080
6	0.33	11.5	20.0	6.35	12,050	59,730
7	0.25	12.0	17.5	6.4	10,000	11,550
8	0.24	12.5	19.0	6.4	9,860	0
9	0.36	12.25	21.5	6.6	8,500	74,910
10	0.35	13.0	20.0	6.0	8,850	43,560
11	0.31	13.25	23.0	6.4	5,400	64,350
12	0.3	8.5	21.25	6.4	8,560	0
合 計	3.6	147	249	76.9	110,600	438,570

注① 期間 昭和55年1月～12月

② 衛生費 1頭当りワクチン代金を含め420円

表 12 棚卸明細 (棚卸家畜)

体 重	昭 和 54.12.31		昭 和 55.12.31		備 考
	頭 数	総 重 量	頭 数	総 重 量	
5 kg	60	300	109	545	
10	134	1,340	63	630	
20	70	1,400	78	1,560	
30	103	3,090	97	2,910	
40	63	2,520	92	3,680	
50	69	3,450	84	4,200	
60	85	5,100	81	4,860	
70	76	5,320	76	5,320	
80	77	6,160	60	4,800	
90	89	8,010	67	6,030	
100	27	2,700	27	2,700	
計	853	39,390	834	37,235	

表 13 棚卸明細 (飼料および医薬品)

年月日 項目	昭 和 54.12.31		昭 和 55.12.31		備 考
	飼 料 t	医 薬 品	飼 料 t	医 薬 品	
ハイブリッド	2.8		2.5		
スーパーB	9.5		6.0		
ゴールドA	1.8		0.4		
ゴールドC	6.5		7.0		
計	2.8 17.8	57,560円	2.5 13.4	24,000円	

#### 4. お わ り に

飼育農家の管理、環境、衛生対応などの状態によって経営内容に差が出てきている。そこでこれらの問題点として下記のことが考えられる。

##### 問 題 点

1. 行政機関あるいは公益の団体または組織の援助がなければ、SPF 豚の検定、年次別汚染度合調査などが充分には実施できない。

2. 現在までは、新期養豚農家を対象に実施しているが、既在の養豚家の更新が主でなければならぬ。これには制度資金の対応がなければ実施困難である。

3. 前述した問題解決のための生産者協議会に SPF 豚農家、経済連で積立てして更新のための基金づくり計画を進めているが、その方法

を考える必要がある。

4. 母豚オールアウト決定要素の確認困難 (更新用廃豚について検査を計画している)。

##### <添 付 資 料>\*

##### 1. 生産成績 (附表 1~4)

経済成績の中で肥育成績についてみると出荷体重昭和51年、96.7kg。昭和53年102.7kgでその平均は、99.9kgであった。出荷平均日令は昭和51年、118日昭和52年111日、昭和53年104日でその平均は112日で育成期中の75日を加えると187日となった。飼料要求率は昭和51年2.92、昭和52年2.93、昭和53年2.93その平均は2.93%であった。枝肉格付けの中で上物率についてみると80.0%、69.4%、52.7%、その平均は、69.9%であった。なお、昭和



52年12月36.6%と低いのは、この時期豚価低迷の為、出荷平均体重を110.0kgと大きくしたためである。(附表1)

一般養豚経営との比較の中で哺育期について見ると昭和51年12月においては、産子数、事

故頭数、雌乳頭数、育成率全ての面でSPFが劣っているが、これはダンス病発生の影響による。昭和52年12月、昭和53年12月においては、それぞれ大差は認められなかった。子豚期の中で30kg到達日令は、昭和51年9月7日、

附表1 肥育成績(A町SPF豚)

(昭和51.11~53.12)

肉豚 出荷 年月	出荷 頭数	素平均 豚平均 導体入重 時	出荷 平均 体重	出荷 平均 日令	増 体 量	飼料 消費量	飼料 要求率	枝肉 平均 重量	枝肉 歩留	枝 肉 格 付 け					
										上		中		並	
										頭数	%	頭数	%	頭数	%
51.11	16	31.6	90.3	109	58.7	184.8	3.10	64.8	71.8	11	68.8	5	31.2	0	—
" 12	60	29.7	97.3	121	67.6	192.8	2.85	66.0	67.8	51	85.0	6	10.0	3	5
" 12	59	30.8	97.8	118	67.0	188.4	2.82	66.6	68.1	46	77.9	8	13.6	5	8.5
小計	135	30.4	96.7	118	66.3	115.9	2.92	66.1	69.2	108	80.0	19	14.1	8	5.9
52. 3	30	39.8	98.5	109	58.7	169.6	2.89	68.5	69.5	17	56.6	11	36.6	2	6.8
" 6	50	42.1	97.5	98	55.4	164.4	2.97	67.2	68.9	37	74.0	8	16.0	5	10.5
" 10	90	39.5	101.0	119	61.5	180.2	2.93	69.2	68.5	64	71.1	20	22.2	6	6.7
小計	170	40.3	99.5	111	59.2	173.7	2.93	68.5	69.0	118	69.4	39	22.9	13	7.6
53. 1	14	30.4	99.5	102	69.1	207.1	3.00	71.3	71.7	13	92.9	1	7.1	0	0.0
" 3	30	36.2	96.9	97	60.7	177.9	2.90	69.2	71.4	15	50.0	12	40.0	3	10.0
" 12	30	40.5	110.0	112	59.5	177.9	2.90	76.9	69.9	11	36.6	15	50.0	4	13.4
小計	74	36.8	102.7	104	61.8	183.4	2.93	72.7	71.0	39	52.7	28	37.8	7	9.5
合計	379	36.1	99.9	112	62.2	155.0	2.93	68.5	69.7	265	69.9	86	22.7	28	7.4

飼育規模(肉豚)1,080頭

附表2 一般養豚経営との比較(哺育期・子豚期)

調査 年月	区 分	哺 育 期				子 豚 期				備 考
		一 腹 平 均				30kg	飼料	飼料費	衛生費	
		産子数	事故頭数	離乳頭数	育成率	到達日令	消費量	飼料費	衛生費	
昭和 51 ・ 12	SPF 一 般 差	9.60	1.86	7.74	80.6	73.3	50.2	4,613	862	
		9.89	1.31	8.58	86.8	83.0	48.8	4,629	1,062	
		△0.29	△0.55	△0.84	△6.2	9.7	1.4	16	200	
昭和 52 ・ 12	SPF 一 般 差	12.75	2.00	10.75	84.3	72.3	32.0	2,496	432	
		10.40	2.00	8.40	80.8	85.0	50.7	3,224	388	
		2.35	0.00	2.35	3.5	12.7	18.7	728	△44	
昭和 53 ・ 12	SPF 一 般 差	9.68	1.05	8.63	86.9	71.4	32.0	2,519	432	
		9.90	1.30	8.60	86.9	83.0	50.7	3,042	388	
		△0.22	0.25	0.03	0.0	11.6	18.7	523	△44	

飼育規模 SPF 1,080頭  
(肉豚)一般 5,000頭

附表 3 一般養豚経営との比較 (肥育期)

調査年月	区分	肥育期									飼料費 円	衛生費 円
		飼養 日数	1頭平均 増体量 kg	飼料 消費量 kg	飼料 要求 率 %	出荷時 体重 kg	枝肉 歩留 %	格付合格率				
								上	中	並		
昭和 51 ・ 12	SPF	116	64.4	188.7	2.93	95.1	69.2	80.0	14.1	5.9	13,858	390
	一般	123	65.3	229	3.51	97.7	70.1	67.0	25.0	8.0	15,800	970
	差	7	△ 0.9	40.3	0.57	△ 2.6	△ 0.9	13.0	10.9	2.1	1,942	580
昭和 52 ・ 12	SPF	118	64.0	186.9	2.92	101.0	72.3	69.5	21.3	9.2	12,522	350
	一般	114	64.3	224.4	3.49	96.3	70.2	57.0	30.0	13.0	15,035	823
	差	△ 4	△ 0.3	37.5	0.57	4.7	2.1	12.5	8.7	3.8	2,513	473
昭和 53 ・ 12	SPF	119	69.6	203.9	2.93	108.6	71.3	32.5	39.3	28.2	11,775	348
	一般	111	63.6	223.9	3.52	95.4	69.6	58.0	28.0	14.0	13,098	818
	差	△ 8	6.0	20.0	0.59	13.2	1.7	△ 25.5	11.3	14.2	1,323	470

飼育規模 SPF 1,080 頭  
(肉豚) 一般 5,000 頭

附表 4 一般養豚経営との比較

調査年月	区分	出荷時平均 体重 kg	枝肉 重量 kg	格付率 よりみ た枝肉 平均 価格 円	1頭当 り枝肉 価格 円	必要経費						所得 円
						素豚 費 円	飼料 費 円	衛生 費 円	償却 費 円	その 他の 経費 円	計 円	
昭和 51 ・ 12	SPF	95.1	65.8	551.1	36,262	17,950	13,858	390	820	155	33,173	3,089
	一般	97.7	68.5	543.6	37,237	17,950	15,800	970	670	157	35,547	1,690
	差	△ 2.6	△ 2.7	7.5	△ 975	0	1,942	580	△ 150	2	2,374	1,399
昭和 52 ・ 12	SPF	101.0	71.0	628.0	44,588	22,880	12,522	350	1,113	53	36,918	7,670
	一般	96.3	67.6	623.0	42,115	22,013	15,035	823	670	100	38,641	3,474
	差	4.7	3.4	5.0	2,473	△ 867	2,513	473	△ 443	47	1,723	4,196
昭和 53 ・ 12	SPF	108.6	77.5	532.0	41,230	23,210	11,775	348	1,133	62	35,528	4,702
	一般	95.4	66.4	556.0	36,918	22,763	13,098	818	670	136	37,485	△ 567
	差	13.2	11.1	△ 24.0	4,312	△ 447	1,323	470	△ 463	74	958	5,269

飼育規模 SPF 1,080 頭  
(肉豚) 一般 5,000 頭

昭和52年12月7日、昭和53年11月6日 SPF は減り、飼料費についても16円、728円、523円と SPF が勝った(附表2)。

肥育期について見ると、飼養日数は、昭和51年12月7日 SPF が勝ったが、昭和52年12月、昭和53年12月においては、SPF がやや長くなっている。飼料要求率は0.57、0.57、0.59% SPF が勝り、格付合格率については、昭和51年、52年それぞれ13%、12.5%、SPF が勝ったが昭和53年12月25.5% SPF が劣っ

た。飼料費については、1,942円、2,513円、1,323円 SPF が勝った。衛生費についても400~600円 SPF が勝っている(附表3)。

肥育豚の経済性は、昭和51年1頭当り枝肉価格で975円劣ったが必要経費で2,374円勝り、所得において、1,399円 SPF が勝った。昭和52年は1頭当り枝肉価格で2,473円必要経費においても1,723円勝り、所得において4,196円勝った。昭和53年1頭当り枝肉価格で4,312円必要経費において958円勝り、所得に

において5,269円 SPF が勝った(附表4)。

2. 今後の対策

附表5, 6

附表5 衛生上の問題点と対策

区分	問題点	対策
特定疾病	A R	昭和53.11.1より母豚+子豚方式により予防注射を実施 昭和54.1より子豚へカナマイシン鼻腔内点加
	S E P	繁殖豚の定期的検査 飼育管理の改善
	トキソプラズマ病	定期的衛生検査 猫等の侵入防止
	豚赤痢	現時点まで臨床的に異常なし 定期的衛生検査
一般疾病	豚コレラ	予防注射
	豚丹毒	"
	豚日本脳炎	"
	バルボウイルス感染症	"
	ダンス病	現在発生なし
	胃潰瘍	一般豚に準じて治療
	遅発性大腸菌症	"
	線維索性肺炎	"
	肝間質炎	"
	コリネバクテリウム症	"

附表6 経済的な問題点と対策

区分	問題点	対策
餌	飼料効率 上物率の向上	定期的に検討し、一定水準以上にあるか否か判定 飼料給与の改善 給与方法及び飼料内容の検討
建物	施設 建設費が高つつく	消毒施設の充実 助成
導入	安定した素豚の確保 近交退化	繁殖豚供給基地建設 同上

\* 昭和53年度の家畜保健衛生所業績発表から抜粋